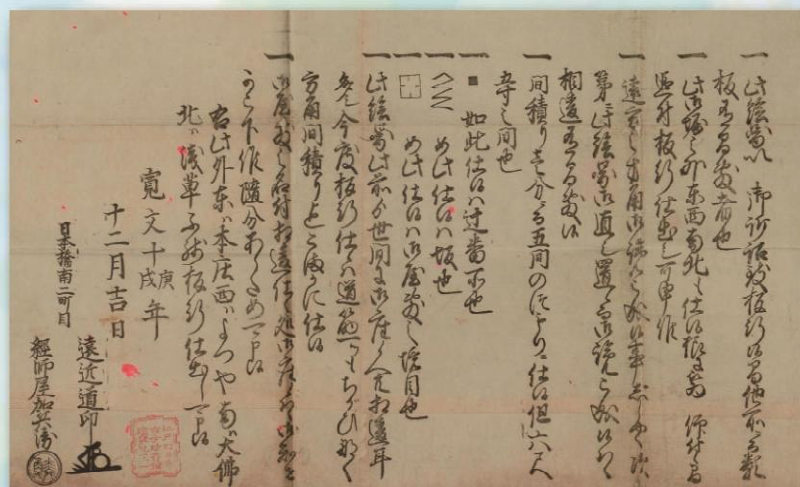


新板江戸大絵図の性格



「新板江戸大絵図」刊記 東京都公文書館所蔵

遠近道印が記した刊記には画期的な実測刊行江戸図の性格と、その刊行に当たっての道印のプライドを窺うことができます。

- ①幕府に特別に許可を得た刊行物なので類板は許されない。
- ②この図の外側も刊行するよう仰せつけられたので追って刊行する。
- ③遠方の方角を知りたいければこの絵図に磁石を当てて方角を確認すれば間違いない。
- ④1分にて5間の縮尺である。
- ⑤辻番所・坂・屋敷境界の地図記号
- ⑥これまでも江戸図はあったが、相違が多かった。この度刊行した本図は、「道筋一つも違いなく方角縮尺とも精細に作成してある。」

作者の遠近道印は、富山藩の医師、藤井半知という人物で、北条氏時の測量図をベースとしてこの江戸中心部の絵図を刊行、さらにこの後、周辺部の絵図4点を相次いで刊行し、それらをまとめて「寛文五枚図」と称されています。正確な実測を踏まえた江戸図が、広く出版され流布していく基礎が築られました。